

平成28年度 学校自己評価システムシート (県立不動岡高等学校)

目指す学校像	明日の世界を創造する品格あるリーダーの育成 科学教育と国際理解教育の拠点校として地域文化への貢献
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 セメスター制・進学重視型単位制を生かした指導を徹底し、「合格力」を養成する。 2 気力と体力の充実を図るとともに高い志を育み、第一志望校への進学を実現する。 3 「質実剛健」「明朗質素」「文武両道」を日々実践する生徒を育成する。 4 本校の教育活動について、地域への発信力を高める。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	10名

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標			年度評価(3月1日現在)					
部	○現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策		
1	<p>現状</p> <p>○研究授業や研修会を実施し、授業力向上に取り組んでいる。</p> <p>○SSH 5年満了後の移行期間、SGH 推進2年目。</p> <p>課題</p> <p>①『思考力・判断力・表現力』を高める学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学ぶ姿勢の主体化 ・課題研究の深化 ・大学入試改革への対応 <p>②教育活動の推進・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSH 事業完了後の移行期に於ける発展方法の検討 ・SGH 2年目の取組の充実 <p>③外国語教育の充実と国際理解教育の推進</p>	<p>①高大接続改革に対応するアクティブ・ラーニングへの転換</p> <p>②SSH 事業、SGH 事業推進による授業改善</p> <p>③外国語教育の充実によるグローバルな視点の育成</p> <p>①～③関係機関との連携と地域への情報発信</p>	<p>①・主体的な学びの導入に向けた校内研修の実施と各教科での実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の改善検討 <p>②・SGH・SSH における課題研究の深化と国際性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修の実施と国際性の育成 ・英語プレゼン講座の実施と発表力向上 ・外部機関との連携強化(学校外の学修の単位認定を含む) ・SGH・SSH の趣旨に沿った教育課程の改善 ・教科、科目を横断した指導方法を探求 <p>③外国語教育の充実と海外派遣や受け入れの充実。</p>	<p>①・行内研修実施回数、各教科の授業研究、教員の自己評価シートへの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の自己評価及び生徒の授業アンケート、保護者アンケート <p>②SGH・SSH 事業での当初計画の遂行</p> <p>(1)課題研究の生徒満足度</p> <p>(2)英語によるプレゼン実践の増加</p> <p>(3)外部機関との連携による課題明確化と次年度への引継ぎ</p> <p>③生徒の質的变化</p> <p>(1)国際理解の関心向上(アンケート)</p> <p>(2)発表の機会数増加</p> <p>(3)交流活動への参加数増加</p> <p>④HPへ適時に情報掲載</p>	<p>①・校内研修を平成29年3月に実施予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語科では、通年で授業改善研修を実施。 ・教員の(アクティブ・ラーニングの視点)授業改善への意識は高く、計画的に実践。 ・次期学習指導要領への対応として、教育課程などシステム改善を具現化(総合科目、探究科目の実施に適した学習サイクルの導入に必要な学習時間の確保。思考力・判断力・表現力、知識・技能を身に付けさせる学習スタイルの実施に向けたシステム変更)。 ・保護者アンケート、授業の感想で『指導がしっかりしている』とする回答が5ポイント上昇、『わかりやすい授業』とする回答が2ポイント上昇(前年比)。 <p>②・SGH課題研究の満足度は、生徒アンケート関連4項目で平均6.7%上昇(現2年次の昨年度との比較)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSH課題研究の満足度は、『満足』と回答した生徒が83%であった。 ・指導者より：SSH、SGH事業の校内への広がり発展的な研究の推進が課題。 <p>③・豪州研修参加希望者が増加。国際的な視野を得たと回答する生徒数が増加(H27: 51.3%→H28: 56.7%、3年次生)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豪州の高校との短期相互留学の新規導入、マレーシアと台湾からの学校交流受入れにより、生徒の発表の機会が増加、国際交流の活性化を実現。 <p>③英語検定1級に1名、準1級に3名合格。校内スピーチコンテストへの普通科からの出場、入賞者が増加(外国語科の取組みの普通科への波及)。</p> <p>④外国語科企画、SSH・SGH企画、国際交流企画の内容を適時にホームページに掲載、随時、情報発信。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>①教育課程等システムを変更したことで、授業方法など学習スタイル改善を具現化する。</p> <p>②平成29年度のSSH新規指定に向けて申請し、探究科目の研究開発を継続する。</p> <p>②「SGH後」を見据え、現行の各取組を通常の教育活動への活かし方を検討する。</p> <p>③交流参加者が他の生徒と体験を共有する機会をさらに増やすよう工夫する。</p> <p>③SGHの成果がある一方で、『国際的な広い視野を得た(学習状況調査)』と回答が1学年で低下(62.2%→57.5%)。生徒の積極性を更に引き出す必要がある。</p>	<p>学校関係者からの意見・要望・評価等</p> <p>アクティブ・ラーニングの指導では、アウトプット活動による知識の吸収となり定着率が高く指導効果が期待できる。新大学入試への対応として有効となれば、今後のますますの深化が期待される。</p> <p>SSH・SGH では、指定の授業を受けている生徒のみならず、Fプランにより学年で幅広く課題研究や発表活動を行っており、今後も表現力や思考力が全校で深まることが期待される。</p>
2	<p>現状</p> <p>国公立大学(医学部、難関含む)、難関私大合格者数は近年比増となった。</p> <p>課題</p> <p>①面談等個別指導の更なる充実</p> <p>②難関大学やSGU 合格者、海外進学者の増加</p> <p>③自主学習時間の増加(授業の予復習の徹底、計画的な学習習慣の確立)</p> <p>④各種事業への取組の充実</p> <p>⑤消去法的な科目選択の改善</p>	<p>①③④⑤進路意識改善につながる行事実施方法の更新</p> <p>②校内組織の連携強化、各種事業と授業や補習との連鎖強化</p> <p>③⑤世界のリーダーとなる素地の育成</p>	<p>①②③⑤・進路意識・進路実績の向上に向け、講演会開催、進路だより発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部、学年、Fプラン部の連携を密にした系統的・継続的な進路指導 ・HR 担任や部活動顧問による複数回の面談による高い志の維持 ・進路実現に向けた保護者の意識改革 <p>②④・授業・補習・課題の充実による塾を必要としない指導の徹底。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝登校の奨励、年間学習計画・週間課題等の工夫による自主学習時間の確保。 <p>③④⑤・リーダー育成事業等委嘱事業への積極的な参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Fプラン、課題研究の深化。 	<p>①③⑤・生徒の進路意識の経年変化を追い、妥協のない進路目標を持ち続けたが、家庭学習時間、自主学習の実施状況の改善(生徒アンケート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路行事の有効性の検証(生徒アンケート) <p>②・進路実績目標を達成度</p> <p>国公立大(目標100名以上)・難関国立大(目標30名以上)・難関私立大(目標80名以上)・SGU(H26 333名→目標350名以上)</p> <p>③④⑤・各事業への参加数増加</p>	<p>①③⑤・センター試験後も妥協のない出願への指導を校内で確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年や分掌と連携した進路指導により、生徒の進路実現に向けた意識が向上し、家庭学習頻度(『毎日・ほぼ毎日行う』)の前年比6.9%が上昇(生徒アンケート)。 ・学習スタイルが『気分しだいで行う』が4ポイント減少(全学年)、『自主的・計画的に行う』が2ポイント増加(全学年)。 ・生徒アンケートで、進路学習が『役立っている』の回答割合が2.5ポイント上昇。 <p>②(進路実績は略)</p> <p>②④・企画委員会の調整により、行事を計画する上では夏季補習を優先することを確認。今年度の夏季進学補習(3年生対象)は、51講座を開講し、のべ1100名の生徒が出席。</p> <p>④⑤・SSH・SGHでの課題研究や中学校等、地域での研究発表、外国語科主催コンテスト、海外研修など各種事業を実施、主体的・積極的な学習姿勢を育成。</p> <p>④⑤・県教委指定の『骨太リーダー育成』事業へ、のべ27名を派遣、哲学や美術ほか最先端の研究に触れさせ、リーダーとなる素地の育成。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>②補習等手厚い指導を行ったが、センター試験で力を発揮しきれなかった生徒もいる。自力で道を拓こうとする遅さを育てる必要がある。</p> <p>②各事業の推進により、SGU大学への進路実績の更なる向上を図る。</p> <p>⑤生徒学習状況の分析では、授業への信頼度は高いが、学びの意味を見いだせない生徒が複数いる。消極的な科目選択の改善には、学びの意味を指導するキャリア教育の視点に立った対応が必要である。</p>	<p>現役合格に拘らず、妥協せずに志望校を目指すとする姿勢を維持拡大して欲しい。しかし、保護者がいち早く安心したいことや学費の面からも現役で進学先を決めなければならない状況の生徒もいることから、3年0学期に於ける生徒の意識が、より強まるとよい。</p> <p>志望校への拘りを強めるためには、キャリア教育の観点からの指導の改善が期待される。</p>
3	<p>現状</p> <p>全校共通理解の指導下、本校生徒にはプライドが育ち、文武両道に向け意欲的である。</p> <p>課題</p> <p>①自発的な挨拶を含めた更なる自主性の育成</p> <p>②規律と品格のある態度やリーダー的素養の育成</p> <p>③学業と部活動・生徒会活動・学校行事との両立</p>	<p>①地域が誇る不動岡高校の生徒としてのアイデンティティの確立</p> <p>②規律ある態度と主体的な取組姿勢の育成</p> <p>③文武両道の実践</p>	<p>①②・学校全体の共通理解の下、挨拶の励行、服装・清掃・安全指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の交通マナー指導 ・集会時の講話、面談、学年通信等を活用した規律ある生活態度や他を思いやる心の育成。 <p>②諸活動での主体的な取組機会の設定</p> <p>③完全下校時刻の徹底及び学業と部活動・生徒会活動・学校行事との両立のための意識啓発と実践</p>	<p>①交通事故件数の減少、整容指導の継続、全校清掃活動及び災害時の避難方法の徹底、防火用具使用方法の習熟</p> <p>①②生徒自己評価の分析</p> <p>(1)不動岡高校生としての誇り</p> <p>(2)リーダーとして社会に貢献する意識</p> <p>(3)行事に参加して高まった資質</p> <p>③・完全下校時刻の遵守状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒学習状況調査の評価結果 	<p>①大きな事故もなく、安心安全な学校生活を過ごせている。教員の指導に向き合う姿勢は良好である。</p> <p>②『不動岡高校生』としての誇りは、過去5年間は全学年で下降傾向にあるが、3学年では前年の3学年比8ポイント上昇した。リーダーとして社会に貢献する意識は、全学年で前年比8.2ポイント上昇した。生徒は、行事を通して『思考力』、『責任感』、『忍耐力』が高まったと自己評価している(全学年)。</p> <p>③完全下校時刻は概ね守っており、自主家庭学習の時間は増加している(生徒学習状況調査)。</p> <p>③部活動では、陸上部、水泳部、新聞部、SSC部が全国大会に出場するなど、他の部活も含め、意欲的に充実した活動を行っている。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>①自発的な挨拶や服装自己点検、登下校時のマナー向上を指導する。</p> <p>①美化委員会の活性化で生徒の自主的な校内美化活動を図る。</p> <p>③下校後の時間の使い方について、自宅学習へ切り替えが不十分な生徒もいる。また、完全下校については、教員間の共通理解にすり合わせを行う必要がある。</p>	<p>本校生徒は、周囲の状況をわきまえて、マナーを意識した行動ができていようように見受けられる。地域からは、更なる向上を期待する声があるようだが、生徒が自身で行動を振り返り、自己評価できるようになることで応えられるだろう。</p>
4	<p>現状</p> <p>広報活動・PTA活動ともに積極的に取り組んでいる。</p> <p>課題</p> <p>①HPに古い情報が散見される。</p> <p>②SSHやSGHをはじめとする積極的な広報活動を継続・発展</p> <p>③PTA活動の充実発展</p>	<p>①HPの適時更新</p> <p>②広報活動の充実</p> <p>③保護者との連携及びPTA活動の充実</p>	<p>①HPによる教育活動や学校行事の積極的な情報発信</p> <p>②・学校説明会、土曜公開授業等を一層周知による来校者の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元や近隣小中学生の意識啓発事業(出前授業など)、地域の教育委員会、関係機関、塾、地域の方との密接な連携、情報交換 <p>③・おたより・斉送信メール等による保護者への迅速な情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAによる個別相談の日程を早め、8月・10月に実施 	<p>①HPによる迅速・正確・積極的な情報発信の実施状況</p> <p>②・学校説明会や土曜公開授業等の参加者数の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校志願者の増加 ・地元小中学校や地元の関係機関と密接な連携の実態 <p>③保護者への効果的な情報発信の実施頻度とPTA活動への参加者数の増加</p>	<p>①SSH・SGHを中心とした事業や部活動、学校行事の様子を適時にHPにアップし情報を発信した。</p> <p>②全5回の学校説明会参加者のべ2500名(昨2532名)、進学フェア672名(昨635名)、外国語科オープンキャンパス248名(昨250名)等、昨年度同様に関心が高い状況だった。</p> <p>②中学2年生の説明会等への参加が増加していることが特筆に値する。</p> <p>②秋の塾主催進学説明会への対応件数が増加し、中学2年生の本校への上級学校訪問受入も増加した。</p> <p>③夏季支部PTAには延べ670名の保護者が参加。11月の大学見学会へは74名の保護者が参加。11月30日、埼玉県高P連生徒指導委員会で活動内容発表。一年を通して、各行事とも盛会であった。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>①次年度も今年度同様、広く取組の周知を図るよう努める。その際、引き続き個人情報の扱いに注意する。</p> <p>②中学生の減少に伴い新たな地区(鴻巣市地区等)の新規の志望者の開拓や中学2年生や1年生への広報も積極的に検討しなければならない。</p> <p>②広報の充実により、志願倍率が前年比大きく上昇した。</p> <p>③各支部会員数の増減を元に、支部の再編成を検討する。</p>	<p>HP等による情報発信も引き続き期待するが、アナログの広報による効果が実は高いのではないかと。中学2年生の進路意識が高まっている流れに乗った広報を、教員や生徒と中学生が触れ合える機会を増やすなどにより行ってほしい。</p>